



命と生活



コロナ禍を越えて

2020.7.20 Mon. 17:00-19:00

@オンライン開催 ●参加費:無料 ●定員:先着20名

昨年末から世界に広まった新型コロナウイルスは、50万人を超える人々の命を奪うとともに、感染が拡大した国や地域における人びとの生活を一変させました。日本でも、今年4月に非常事態宣言が出され、学校は休校になり、職場ではテレワークが導入され、移動や外出、外での飲食などは、自粛が要請されました。他方、医療現場では、感染者の救命と感染防止に献身的な努力が払われました。5月に非常事態宣言は解除されましたが、感染が再び拡大する可能性は残っています。また、様々な自粛によって打撃を受けた生業をどのように回復させるのか、こどもたちや学生の学習の遅れをどのように取り戻すか等、経済や教育、社会に関わる課題も山積んでいます。今回のサロンでは、医療、政策、生活の現場で諸課題に取り組んでいる研究者や実践家を招き、この数ヶ月に起こったことをどのように受け止め、今後、何を為さなくてはならないかを話し合います。

■プログラム (司会進行:木多道宏 SSI副長、工学研究科教授)

- 17:00 開会挨拶 堂目卓生 SSI長・経済学研究科教授
- 17:10 話題提供
 - 熊ノ郷淳 医学系研究科教授
「免疫研究と臨床応用～コロナ感染理解のために～」
 - 大竹文雄 経済学研究科教授 「コロナ感染症対策の行動経済学」
 - 新川達郎 同志社大学政策学部教授
「感染症防止と自粛のもとにおける市民的連帯の棄損と再生～市民的公共性の刷新～」
 - 早瀬昇 大阪ボランティア協会理事長
「“正しさ”が崩す自由な連帯
～STAY HOMEに込められた意味と試行錯誤の日々から考える～」
- 18:10 ディスカッション (モデレーター:堂目卓生)
- 19:00 終了